

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	The role of radiation therapy following resection of single brain metastasis from melanoma	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	MMCQ19-11	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1 つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（ I V ）	
	Pubmed ID	2296364	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Neurology	
	雑誌 ID		
	巻	40	
	号	1	
	ページ	158-60	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1990 年	
	著者情報		氏名
筆頭著者		Hagen NA	スローンケタリング記念病院
その他著者 1		Cirrincione C	同上
その他著者 2		Thaler HT	同上
その他著者 3		DeAngelis LM	同上
その他著者 4			
その他著者 5			
その他著者 6			
その他著者 7			
その他著者 8			
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	悪性黒色腫で単発性脳転移を生じた患者に対する手術療法後の放射線治療の意義を検討する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究	
	セッティング	スローンケタリング記念病院	
	対象者	単発性脳転移で手術を受けた 35 例 平均年齢：44 才（24—70） 腫瘍径：<3 cm（21 例）、>3 cm（14） その他の腫瘍の存在部位：なし(17 例)、原発(2)、播種(16)	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず（3）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず（3）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず（14）	
	介入（要因曝露）	切除単独（19 例） 切除＋術後放射線(16 例)：24-40 Gy（2-3 Gy／回）	
	エンドポイント（アウトカム）	エンドポイント	区分
	1	頭蓋内制御	1.主要 2.副次 3.その他（3）
	2	神経症状の改善	1.主要 2.副次 3.その他（3）
	3	生存率	1.主要 2.副次 3.その他（3）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	脳内制御期間：26.6 か月（照射群） vs. 5.7 か月（非照射群）(p<.05) 生存期間：6.4 か月（照射群） vs. 8.3 か月（非照射群）差なし 脳転移による死亡：24%（照射群） vs. 85%（非照射群）(p<.01) けいれんの改善に関し、照射の有無による検討はなし	
	結論	単発性脳転移に対しては手術後の放射線治療を考慮すべき。 生存は全身的に腫瘍が制御されているかで決まる。	
	備考		

レビュワーコメント	レビュワー氏名	鹿間直人
	レビュワーコメント	極めて症例数が少なく、患者選択にバイアスを考慮しているの だろうか？表では照射群と非照射群の背景を比較しているが、全身 状態、頭蓋外の活動性病変などは明確な記載なし。 「生存は全身的に腫瘍が制御されているかで決まる。」との結論が あるが、術後放射線治療が生存を延ばすかどうかは不明であるはず。 レベル I V